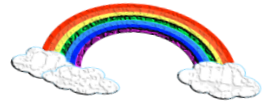




にじのはし幼稚園 園だより



令和 7 年 7 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田 美 弥

早いもので、1学期も最後の月となりました。6月に行われた「にじっこまつり」では、5歳児のお店『あすれちっくうみめいろ』に加えて、地域の方のお店と係の保護者の方のお店もあり、未就園児の会にじっこキッズの親子や、近隣の保育園の子どもたちも一緒に楽しい時間を過ごすことができました。お忙しい中時間をつくっていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。いつもありがとうございます。

親子わくわくデーでは、各クラスとも親子で一緒に遊ぶ時間をつくりました。ご家庭からお寄せいただいた感想からは「抱っこして走る時にすごくうれしそうにしていました。」「帰ってきてからも楽しかった、楽しかったと何度も言っていました。」「家に帰ってからもつくったものでしばらく遊んでいました。」などなど、短い時間ではありましたが、自分の幼稚園でお家の方と一緒に過ごす時間を楽しんだ子どもの様子が伝わってきました。

幼稚園では意図的・計画的に保育参観や保育参加の機会を設けています。
是非積極的に活用していただき、園での生活を知っていただけたらと思います。



にじのはし幼稚園は、幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。

一人ひとりのよさを受けとめ共に育む保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメント(子どもと養育者の間の情緒的なつながり)を築き、安心・安全の基地となって子どもを支える保護者
- ③ 学級や園の子どもたちの成長を、先生や保護者と共に喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力をし、信頼関係を基盤として園や地域と共に子どもを育む保護者
(幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針より)

先日「心の子育て講座」でご講演をいただいた塩沢節子先生は、自園の保育のあり方について、『チューリップ憲章』というものを掲げています。以下、抜粋させていただきます。

靴を履かせてあげるのが保育ではなく、靴を履こうとする気持ちに寄り添うことが保育
靴を脱いじゃいけないよと言うことが保育ではなく、靴を脱いだ場所に危ないものがないか見るのが保育
嫌いなものを頑張って食べさせるのが保育ではなく、嫌いなものも食べられたらいいねと願うのが保育
〇〇の時間！と子どもを動かすことが保育ではなく、今何の時間が知ってる？と気づかせるのが保育
泣いていたらすぐ抱っこするのがいいのが保育ではなく、その子に今、何が必要なのかを感じ、抱っこしないこともあるのが保育
できないことをできるにすることが保育ではなく、ぶつかり合う経験も必要なことと大きく見守るのが保育
怪我をしないようにするのが保育ではなく、安全か危険か、できるのかできないのか、自分で見極める子を育てるのが保育

この文章を初めて目にしたとき、子どもとの時間を大切にしているからこそその深い愛を感じました。ご家庭でも参考になることがあるのではと感じたのでここで共有させていただきます。子どもという時間が長くなる夏休みには是非、お子さんに寄り添い、アタッチメントを更に築いてほしいと思います。どんなに園で工夫して愛情いっぱい保育をしたとしても、子どもの安全基地となるのは保護者の方です。大きな心で保護者の方に受け止められた子どもたちは、安心して次の挑戦ができます。

保護者・地域の皆様には、1学期の間、親子活動や行事、PTA活動、係活動等々、本園の教育にご理解・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。夏休み中も、本園の子どもたちをあらゆる場所で見守っていただけると幸いです。これからも「大人も子どもも笑顔でいられる安心な居場所」を園・家庭・地域で支えていきましょう。